

授業科目名	解剖生理学 I	担当講師名	宮越 一穂
開講時期	1 年次前期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	看護に必要な人体の構造と機能を理解する 1) 日常生活を営むうえで、人体がどのような構造をもち機能しているかを理解する 2) 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体について理解する		
授 業 内 容			備 考
1. 看護の土台となる解剖生理学 1) 解剖学、生理学とは 2) 解剖生理学的正常位、方向用語、断面 3) 腔所と臓器 4) 生命と恒常性（ホメオスタシス） 5) フィードバック機構と構成要素 2. 細胞・組織 1) 人体を構成する元素と微量元素 2) 核の構造と核膜、染色体、染色質（クロマチン） 3) 細胞膜の構造と機能 4) タンパク質合成に関与する RNA の機能 5) 細胞内小器官の各部の名称と機能 6) 細胞質分裂と減数分裂 7) 主要な組織（上皮、支持、筋、神経）と各組織の名称 8) 各組織の存在する人体の部位 3. 皮膚と膜 1) 漿膜の構造と機能 2) 粘膜と皮膚の連続部位 3) 滑膜や滑液包の部位と役割 4) 表皮・真皮・皮下組織の構造 5) 皮膚の機能 6) 体温の調節機能 4. 循環器系 1) 心臓の位置と各部位 2) 体内循環 3) 脳循環と体循環 4) 心臓に栄養を送る血管 5) 刺激伝導系 6) 心周期と心音、心電図 7) 心拍と心拍の調整 8) 動脈、静脈の構造と機能 9) 主な動脈と静脈の名称 10) 脳、門脈、胎児の循環 11) 血圧と脈拍 12) 血圧の調整因子 13) 脈拍の触れることのできる血管 14) リンパ系、循環器系、免疫系の関連			
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 （医学書院）		

授業科目名	解剖生理学 II	担当講師名	宮越 一穂
開講時期	1 年次前期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	看護に必要な人体の構造と機能を理解する 1) 日常生活を営むうえで、人体がどのような構造をもち機能しているかを理解する 2) 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体について理解する		
授 業 内 容			備 考
1. 呼吸器系 1) 呼吸器官 鼻や口から入る空気が肺に至るまでに通る器官 2) 呼吸器系の加温・加湿・清浄化（感染制御）機構を述べる 3) 胸腔における胸膜と肺の位置 4) 肺胞の構造 5) 呼吸の機能 6) スパイロメーター 7) 肺活量、%肺活量、一秒量、1 秒率の臨床応用 8) 外呼吸、内呼吸 2. 消化器系 1) 食欲の調節機構 2) 唾液の成分と機能 3) 歯の構造と乳歯と永久歯の名称 4) 嚥下の機構 5) 胃、小腸、大腸の構造名 6) 消化管や付属腺から分泌される消化酵素と各々が作用する食物 3. 腎・泌尿器系 1) ネフロン構造 2) 糸球体の濾過と尿細管の再吸収、分泌による尿の生成過程 3) 尿に含まれる物質 4) 無尿、乏尿、多尿 5) アルドステロンの影響とナトリウム、カリウムの調整 6) 排尿の機構 7) 尿道の構造と男女差 4. 生殖器系 1) 卵巣の機能 2) 卵管、子宮、膣と膀胱、直腸との位置関係 3) 卵胞、黄体、卵子発生の機序 4) 排卵 5) 月経周期に伴う子宮内膜の変化とホルモン 6) 受精と受精卵の着床 7) 妊娠による母体の変化 8) 精子の産生と射精 9) 精巣の特殊な細胞と機能 10) 男子の生殖腺の名称、開口部および分泌腺 11) 陰囊の精巣の温度調節 12) 陰茎の構造 13) 精子の形成過程			
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 (医学書院)		

授業科目名	解剖生理学 III	担当講師名	1・2 新藤光郎 3・4 宮越一穂
開講時期	1 年次後期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	看護に必要な人体の構造と機能を理解する 1) 日常生活を営むうえで、人体がどのような構造をもち機能しているかを理解する 2) 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体について理解する		
授 業 内 容			備 考
【新藤講師】(12 時間) 1. 内分泌系 1) 内分泌臓器およびホルモンの種類 2) 下垂体、性腺など 3) 甲状腺、副腎 2. 血液 1) 赤血球造血と血液型 2) 止血機序 3) 白血球とリンパ球 【宮越講師】(18 時間) 3. 骨格系 1) 骨格器系の機能 2) カルシウム代謝と骨の役割 3) 骨芽細胞の働き 4) 頭蓋の骨の名称 5) 泉門 6) 脊柱を構成する椎骨 7) 椎間板の働き 8) 上肢と下肢の骨の名称 9) 骨盤の形状と性差 10) 3 種類の関節とその名称 11) 屈曲、伸展、外転、内転、回内、回外 12) 骨のスケッチ 4. 筋系 1) 筋組織の特徴とその組織の存在する臓器 2) 骨格筋の収縮と活動電位、等張性収縮、等尺性収縮 3) 神経筋接合部とアセチルコリンの作用 4) 体表面に近い主要な筋の名称			
評価方法	筆記試験 1, 2 (新藤講師分) 40 点 3, 4 (宮越講師分) 60 点		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 (医学書院)		

授業科目名	解剖生理学 IV	担当講師名	宮越 一穂
開講時期	1 年次後期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	看護に必要な人体の構造と機能を理解する。 1) 日常生活を営むうえで、人体がどのような構造をもち機能しているかを理解する 2) 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体について理解する		
授 業 内 容			備 考
1. 神経系 1) 中枢神経と末梢神経 2) ニューロンの基本的構造 3) ニューロンの活動電位と他の神経細胞への伝導 4) 神経伝達物質 5) 体性感覚受容器 6) 大脳、間脳、脳幹、小脳の機能 7) 脊髄の機能と構造 8) 髄膜の構造 9) 脳脊髄液の産生と機能 10) 脊髄伝導路 11) 脳神経の名称とその機能 12) 交感神経と副交感神経の機能 13) レム睡眠とノンレム睡眠 14) サーカディアンリズム 2. 感覚系 1) 眼球の構造 2) 杵体と錐体の機能的違い 3) 屈折、正視、近視、遠視、老視、盲点、眼圧 4) 対光反射 5) 外耳、中耳、内耳の構造と機能 6) 静的、動的平衡覚 7) 嗅覚と味覚の受容器 8) 皮膚感覚の受容器 3. 免疫系 1) 皮膚と粘膜の防御機構 2) 食細胞と NK 細胞 3) 細胞が産生する抗菌細胞 4) 免疫の機序 5) T 細胞と B 細胞、形質細胞 6) 抗原と抗体 7) 能動免疫と受動免疫 8) 免疫グロブリン 9) アレルギー反応			
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 (医学書院)		

授業科目名	生化学	担当講師名	山本 恵三
開講時期	1 年次前期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	看護学において、人体を維持する仕組みを理解する上で基本となる、化学的視点を養うことを目標とする。 1. 生体を構成する分子の構造を生化学的な視点から理解する。 2. 生体内で化学物質がどのように反応して生命を維持しているのかを理解する。		
授 業 内 容		備 考	
1. 生化学を学ぶための基礎的な化学的知識 1) 原子と分子・化学結合 2) 有機化合物 3) 異性体 2. 代謝の基礎・生体触媒としての酵素の働き 1) 代謝の基礎 2) 酵素・補酵素・補因子 3) ビタミン 3. 糖質 1) 糖質の構造と機能 2) 糖質の代謝 4. 脂質 1) 脂質の構造と機能 2) 脂質の代謝 5. タンパク質 1) アミノ酸・タンパク質の構造と機能 2) アミノ酸・タンパク質の代謝 3) 酵素が関与する反応 4) 翻訳と翻訳後修飾 6. シグナル伝達 1) シグナル伝達物質 2) シグナル伝達の機序		基礎的な化学的知識を身につける 代謝の全体像を理解する 栄養素 炭水化物 アミノ酸とは何か？ 必須アミノ酸 タンパク質のできるまで	
評価方法	筆記試験 小テストを行う場合があります。		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 (医学書院) プリントを配布します。		

授業科目名	栄養学	担当講師名	吉田 有里
開講時期	1 年次後期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	栄養学は人間の健康づくりのための学問であり、その基礎知識を学習することは、臨床で応用する場合に必要な不可欠である。本講義では最新の栄養学的見地に基づいた栄養管理、栄養食事療法への理解を深めながら、適切な看護援助を行うために必要な栄養学の知識を取得する。		
授 業 内 容			備 考
1 ガイダンス／臨床栄養学の基礎知識 2 栄養素の種類と働き（１） 3 栄養素の種類と働き（２） 4 日本人の食事摂取基準 5 食文化・運動と栄養 6 栄養アセスメント 7 ライフステージに応じた健康生活と栄養（１） 8 ライフステージに応じた健康生活と栄養（２） 9 嚥下障害のある人の食事及び経管栄養と中心静脈栄養の管理と指導 10 病院食：一般食、特別食、検査食 11 疾患別食事指導の実際（１）：消化器系疾患 12 疾患別食事指導の実際（２）：内分泌、代謝疾患 13 疾患別食事指導の実際（３）：循環器、腎疾患、その他 14 食事指導の実際 15 まとめ			「解剖生理学Ⅱ」 （栄養素の消化・吸収） 「生化学」 （栄養素の体内代謝） 「病態生理学」 （各疾患の病態・生理・診断、消化機能障害、嚥下機能など）
評価方法	筆記試験・小テスト・提出物		
教科書	ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち④ 臨床栄養学 メディカ出版		

授業科目名	微生物学	担当講師名	新藤 光郎
開講時期	1 年次前期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	病原微生物について、看護現場に必要な知識を身につけ看護現場での感染管理の実践に役立てる		
授 業 内 容			備 考
1. 微生物とは 細菌とウィルスの相違点 2. 細菌の構造 グラム染色による分類 遺伝、エネルギー代謝など 3. 真菌ウィルスの構造 4. 感染経路 感染、伝染など 5. 生体防御（免疫について） 6. 消毒、滅菌、ワクチン 7. 検査法 感染症法 院内感染 8. 感染症治療（抗生物質） 9. 細菌各論 1) グラム陽性球菌 グラム陰性球菌 2) グラム陰性桿菌 3) グラム陽性桿菌 ピロリ菌 4) 嫌気性菌 マイコプラズマなど 10. ウィルス（DNA ウィルス）各論 1 真菌 原虫 11. ウィルス（RNA ウィルス）各論 2 プリオン病			
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 （医学書院）		

授業科目名	病理学	担当講師名	小林 庸次
開講時期	1 年次後期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	病理学は病気の原因、発生の機序、病気による臓器・組織の変化、その経過、予後を追求する学問である。病気の原因や各種疾患に共通する変化を学ぶことにより、病気への理解を深め、その治療、予防に対する基礎的知識を会得することを目指すことを目標とする。		
授 業 内 容			備 考
1 病理学とは 2 病気の原因（病因） 外因 内因、先天異常、遺伝性疾患 3 細胞・組織の損傷 萎縮、変性、壊死 4 代謝異常 脂肪・蛋白質・糖質の代謝異常など 5 適応現象と修復 肥大と過形成、化生、再生、治癒 6 循環障害 充血 鬱血 虚血 出血 血栓症 塞栓症など 7 炎症 炎症の原因、炎症の各型 8 免疫 液性免疫と細胞性免疫、免疫不全症など 9 感染症 おもな病原体と感染症 10 腫瘍 分類 組織学的特徴 転移 病気、発症原因、疫学 各種臓器の腫瘍 11 老化と死 老化に伴う変化、個体の死 12 各種疾患の病理 循環器疾患、消化器疾患など			
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 （医学書院）		

授業科目名	病態生理学Ⅰ 呼吸器系、歯・口腔系 乳癌、 免疫アレルギー 感染症	担当講師名	① ②東野英明 ③中谷守一 ④田村浩一
開講時期	1 年次後期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	各系統別に病態生理、検査・診断、治療などについて学び、疾病の特性を理解し看護を実践するための基礎とする。		
授 業 内 容			備 考
① 呼吸器系（12 時間） 1 呼吸機能障害のメカニズム （1） 換気障害（2）拡散障害（3）ガス交換の障害 （4）酸塩基平衡の障害 2 呼吸機能の検査 （1） 呼吸機能検査（2）画像診断（胸部 X 線、CT） （3）気管支鏡・造影検査（4）胸腔穿刺 3 呼吸器系の主な疾患の病態生理および治療 （1） 慢性閉塞性肺疾患（2）気道・肺の炎症 （3）肺循環障害<肺塞栓症・肺梗塞> （4）肺の腫瘍<肺癌>（5）呼吸不全（6）気管支喘息（7）気胸 ② 免疫・アレルギー系 感染症（12 時間） 1 アレルギー疾患（喘息、アレルギー性鼻炎 アナフィラキシー） 2 自己免疫疾患（関節リウマチ、膠原病） 3 感染症 呼吸器（肺炎 肺結核） 消化器 S T D H I V ③ 乳房（2 時間） 乳癌（乳房切除術を含む） ④ 歯・口腔系（4 時間） 歯・口腔の疾患 咀嚼・嚥下機能の障害			胸腔鏡下手術 肺切除術
評価方法	筆記試験（配点：①45 点 ②45 点 ③なし ④10 点）		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学（医学書院） ① 呼吸器 ②アレルギー 膠原病 感染症 ③歯・口腔 ④ 女性生殖器		

授業科目名	病態生理学Ⅱ 消化器系 栄養・代謝系	担当講師名	①小味渕 智雄 ②新藤 光郎
開講時期	1 年次後期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	各系統別に病態生理、検査・診断、治療などについて学び、疾病の特性を理解し看護を実践するための基礎とする。		
授 業 内 容			備 考
① 消化器系 (22 時間) 1 消化機能障害のメカニズム (1) 咀嚼・嚥下障害 (2) 消化吸収障害 (3) 肝機能障害 2 消化機能の検査 (1) 咀嚼・嚥下機能検査 (2) 画像診断 (腹部 X 線、CT) (3) 消化管内視鏡及び造影検査 3 消化器系の主な疾患の病態生理および治療 (1) 口腔と食道の疾患 ①歯・口腔の疾患 ②咀嚼・嚥下機能の障害 ③食道癌 ④食道静脈瘤 ⑤食道胃逆流症 (2) 消化管の疾患 ①胃・十二指腸潰瘍 ②胃癌 ③大腸癌、大腸ポリープ ④クローン病 ⑤イレウス (3) 肝臓・胆嚢・膵臓の疾患 ①肝炎 (アルコール性、劇症、ウイルス性) ②膵炎 ③肝硬変 ④肝不全 ⑤胆石症 ⑥胆汁代謝・排泄の障害 ⑦肝臓・胆嚢・膵臓の腫瘍 ② 栄養・代謝系 内分泌 (8 時間) (1) 糖尿病 (2) 高脂血症 (3) メタボリック症候群 (4) 高尿酸血症、酸塩基平衡 (5) 内分泌疾患(甲状腺、副甲状腺、下垂体、副腎)			
評価方法	筆記試験 (配点: ①70 点 ②30 点)		
教科書	①系統看護学講座 成人看護学 消化器 (医学書院) ②系統看護学講座 成人看護学 内分泌・代謝 (医学書院)		

授業科目名	病態生理学Ⅲ 血液・造血器系 腎・尿路系 生殖器系	担当講師名	①新藤 光郎 ②久米田 靖郎 ③竹垣 嘉訓 ④中村 哲生
開講時期	1 年次後期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	各系統別に病態生理、検査・診断、治療などについて学び、疾病の特性を理解し看護を実践するための基礎とする。		
授 業 内 容			備 考
① 血液・造血器系 (8 時間) 1 血液疾患総論 2 貧血、血液型 輸血 3 白血病 悪性リンパ腫 多発性骨髄腫 4 出血傾向をきたす疾患 I T P 血友病 D I C など ② 腎・尿路系(8 時間) 1 腎の解剖 腎機能検査 尿異常 電解質異常 2 急性腎不全の病態 ネフローゼ症候群 腎不全管理、腎生検 3 慢性腎臓病の管理 I g A 腎症 糖尿病性腎症など 4 透析療法と合併症 腹膜透析と腎移植 ③ 生殖器系 (14 時間) <男性生殖器 (6 時間)> 1 男性生殖機能障害のメカニズム：勃起障害 2 男性生殖器系の主な疾患の病態生理および治療 (1) 前立腺癌、(2) 前立腺肥大 (前立腺摘出術を含む) (3) 精巣腫瘍 ④ <女性生殖器 (8 時間)> 1 女性生殖機能障害のメカニズム (1) 月経困難症 (2) 更年期障害 (3) 自律神経失調症 2 女性生殖機能の検査 (1) 内診 (2) 子宮鏡検査 (3) 細胞診 (4) 子宮卵管造影 3 女性生殖器系の主な疾患の病態生理および治療 (1) 子宮癌 (子宮卵巣摘出術を含む) (2) 子宮筋腫 (3) 子宮内膜症			
評価方法	筆記試験(配点： ①25 点 ②25 点 ③25 点 ④25 点		
教科書	①系統看護学講座 成人看護学 血液・造血器 (医学書院) ②③系統看護学講座 成人看護学 腎泌尿器 (医学書院) ④系統看護学講座 成人看護学 女性生殖器 (医学書院)		

授業科目名	病態生理学Ⅳ 運動器系 脳神経系	担当講師名	①森川 潤一 ②新藤 光郎
開講時期	1 年次後期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	各系統別に病態生理、検査・治療、診断などについて学び、疾病の特性を理解し看護を実践するための基礎とする。		
授 業 内 容			備 考
①運動器系 (14 時間) 1 運動機能障害のメカニズム (1) 運動麻痺 (関節拘縮・跛行を含む) (2) 知覚障害 2 運動機能の検査及び処置 (1) 脊髓腔造影検査<ミエログラフィ> (2) 各種牽引療法 (3) ギプス固定 3 運動器系の主な疾患の病態生理および治療 (1) 骨折 (観血的整復術を含む) (2) 骨粗鬆症 (3) 骨の腫瘍 (4) 変形性関節症 (人工関節置換術を含む) (4) 椎間板ヘルニア (5) 筋ジストロフィ (6) 筋萎縮性側索硬化症<ALS> (7) 脊髄損傷			・ 大腿骨頸部骨折を含む
② 脳神経系 (16 時間) 1 脳・神経機能障害のメカニズム (1) 頭蓋内圧亢進症状 (2) 意識障害 (3) 言語障害 (4) 運動障害<麻痺・失調> (5) 知覚障害 (6) 失行・失認 (7) 失語・構音障害 (8) 注意・記憶障害 2 脳・神経機能の検査 (1) 髄液検査 (2) 脳血管造影検査 3 脳・神経系の主な疾患の病態生理および治療 (1) 脳内出血 (2) クモ膜下出血 (3) 脳梗塞 (4) 頭部外傷 (5) 脳腫瘍 (6) パーキンソン病 (7) ギラン・バレー症候群 (8) 重症筋無力症			・ 開頭術を含む
評価方法	筆記試験 (配点：①45 点 ②55 点)		
教科書	①系統看護学講座 成人看護学 運動器 (医学書院) ②系統看護学講座 成人看護学 脳・神経 (医学書院)		

授業科目名	病態生理学Ⅴ 循環器系 感覚器系	担当講師名	①宮越 一穂 ②清水 奈美 ③米本由美子 ④宮田 哲史
開講時期	1 年次後期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	各系統別に病態生理、検査・診断、治療などについて学び、疾病の特性を理解し看護を实践するための基礎とする。		
授 業 内 容			備 考
①循環器系 (18 時間) 1 循環機能障害のメカニズム (1) 不整脈 (2) 血圧異常 (3) 心不全 2 循環機能の検査 (1) 心電図 (2) 心臓カテーテル検査・心血管造影検査 (2) 心臓超音波検査 (4) 胸部 X 線検査 (3) 血圧・動脈圧モニター 3 循環器系の主な疾患の病態生理および治療 (1) 虚血性心疾患<狭心症 心筋梗塞> (2) 心筋症 (3) 心内膜炎と弁膜疾患 (4) 動脈硬化症 (5) 高血圧症 (6) 閉塞性動脈硬化症 (7) 大動脈瘤 (5) 静脈瘤 ② 皮膚 (4 時間) 1 皮膚機能障害のメカニズム (1) 蕁麻疹 (2) 発疹 (3) 掻痒 (4) 皮膚の老化 2 皮膚の検査：皮膚反応試験 (免疫・アレルギー検査) 3 皮膚機能障害の主な疾患の病態生理及び治療 (1) 接触性皮膚炎・蕁麻疹 (2) 熱傷 (3) 褥瘡 (4) 老人性掻痒症 (5) 感染症<疥癬> ③ 眼 (4 時間) 1 視機能の障害のメカニズム：(1) 視力障害 (2) 視野障害 2 視機能の検査：(1) 視機能検査 (視力・視野・眼球運動等) (2) 眼底検査 (3) 眼圧測定 3 視機能障害の主な疾患の病態生理および治療 (1) 白内障 (2) 緑内障 (3) 網膜剥離 (4) 老視 ④ 耳鼻咽喉 (4 時間) 1 聴覚・平衡感覚機能障害のメカニズム (1) 聴覚障害 (2) 平衡機能障害 2 聴覚・平衡機能の検査 (1) 聴力検査 (2) 平衡機能検査 3 耳鼻咽喉系の主な疾患の病態生理および治療 (1) 中耳炎 (鼓室形成術を含む) (2) 副鼻腔炎 (3) メニエール病 (4) 喉頭がん (手術療法を含む) (5) 老人性難聴 (6) 突発性難聴			・甲状腺切除術 ・ホルモン補充療法・抗ホルモン療法 「微生物学」との関連あり ・喉頭・咽頭切除術
評価方法	筆記試験 配点：①55 点 ②15 点 ③15 点 ④15 点		
教科書	①系統看護学講座 成人看護学 循環器 (医学書院) ②系統看護学講座 成人看護学 皮膚 (医学書院) ③系統看護学講座 成人看護学 眼 (医学書院) ④系統看護学講座 成人看護学 耳鼻咽喉 (医学書院)		

授業科目名	治療論	担当講師名	①飛田 忠之 賀陽 亮太郎（麻酔のみ） ②未定
開講時期	1 年次後期	単位及び時間 数	1 単位 15 時間
授業の目標 及び概要	様々な状況下にある患者の治療方法や、リハビリテーション療法を学び、基礎的知識とする。		
授 業 内 容			備 考
①「概説」 ・ 内視鏡的治療 ・ 化学療法 ・ 手術療法 ・ 手術侵襲と生体の反応 ・ 手術後の疼痛管理 ・ 術後合併症とその予防 ・ 麻酔法			講義
②「リハビリテーション療法」 リハビリテーション療法の目的 ・ リハビリテーション療法の種類と特徴 （運動療法・物理療法・作業療法・言語療法・ その他のリハビリテーション） ・ 廃用性症候群 関節可動範囲 ROM・MMT			MMT の実際
評価方法	筆記試験 ①50 点 ②50 点		
教科書	①系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 （医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 （医学書院） ②系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 （医学書院）		

授業科目名	薬理学	担当講師名	梶原 啓伯
開講時期	1 年次後期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	臨床の現場で患者ケアのあたる看護師にとっては、」医薬品の作用機序、生体内の動態、有効性、安全性や投与方法など、薬理学的知識とその活用は必要不可欠となる。看護の実践の場で必要とされる臨床薬理学的基礎知識の習得を目指す。		
授 業 内 容			備 考
1. 薬理学総論 1) 薬理学とは何か 薬による病気の治療 薬が作用するしくみ（薬力学） 薬の体内の挙動（薬物動態学） 薬物相互作用 薬効の個人差に影響する因子 薬物の有益生と危険性 2. 薬理学各論 1) 抗感染薬 2) 抗ガン剤 3) 免疫治療薬 4) 抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 5) 自律神経作用薬 6) 中枢神経系に作用する薬物 7) 抗精神病薬 8) 心臓血管系に作用する薬物 9) 呼吸系・消化器・生殖器系に作用する薬物 10) 物質代謝に作用する薬物 11) 皮膚科用薬、眼科用薬、救急の際に使用される薬物 12) 漢方薬、消毒薬 13) 輸血剤 処方箋 添付文書			講義
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 （医学書院）		

授業科目名	医療概論	担当講師名	小味渕 智雄
開講時期	1 年次前期	単位及び時間数	1 単位 15 時間
授業の目標 及び概要	- 現在の医療がどのように発展してきたかを理解するとともに、最新の画期的な新技術の活用によってもたらされた現代の医療を理解する - 現代医療の諸問題について理解できる		
授 業 内 容			備 考
- 死の定義 脳死 臓器移植 安楽死 癌告知 死刑制度 - 健康の概念 疾病の概念 我が国の疾病構造 生活習慣病、癌の発生要因 - 医学と医療 原始的、古代、中世医学、医療の内容 現代医療の本質 - 医療需給体制の現状と整備の経過 - 医療の進歩と医の倫理 医の倫理に関わる歴史的あゆみ バイオエシックス 先端医療における倫理問題 遺伝子医療、出生前診断、生殖補助医療、再生医学			講義
評価方法	筆記試験		
教科書	新体系 看護学全書 現代医療論 (メヂカルフレンド社)		

授業科目名	社会福祉 I	担当講師名	岡本 周佳
開講時期	1 年次後期	単位及び時間数	1 単位 15 時間
授業の目標 及び概要	①看護職が社会福祉を学ぶ意味を理解し、社会福祉の考え方や視点を理解する。 ②現代社会や日常生活における社会問題に気付く力を養い、それらの問題に対応する法律や制度ならびに援助技術を学ぶ。		
授 業 内 容			備 考
1 イン트로ダクション 社会福祉と看護の接点―なぜ社会福祉を学ぶのか― 2 社会保障と社会福祉 3 社会福祉の思想 社会福祉を支える考え方 4 社会福祉の歴史的展開 古代～近代 5 社会福祉の歴史的展開 近代～現代 6 社会福祉の仕組み―法律、制度、実施体制― 7 社会福祉の分野と担い手 8 まとめ			配布資料 第 1 章 A、第 2 章 配布資料 第 9 章 配布資料 第 1 章 B 第 1 章 B、第 8 章 第 8 章 ・講義、個人ワーク、ペアワーク、グループワークなどを行う。積極的な参加が望ましい。
評価方法	筆記試験(60%) 毎回の振り返り用紙（小テスト含む）と授業参加度(40%)		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉（医学書院）		

授業科目名	公衆衛生学	担当講師名	吉川 賢太郎
開講時期	1 年次後期	単位及び時間数	30 時間
授業の目標 及び概要	公衆衛生学の主目的は、人間集団と個人の健康の維持・増進と疾病の予防を図ることである。集団と個人の健康や QOL を維持・改善する能力の向上と人々の生命の延伸を行うための知識・技術を学ぶ。		
授 業 内 容			方法・【関連科目】
① 公衆衛生とは 公衆衛生の歴史 健康の概念 ② 公衆衛生の活動対策 ③ 公衆衛生のしくみ ④ 疫学概念と歴史 疾病・死亡の指標 ⑤ 疫学の効果指標 疫学研究のデザイン（種類） ⑥ 検査の指標とスクリーニング 統計解析の基礎 ⑦ 人口静態統計・人口動態統計 ⑧ 死因統計・疾病統計 ⑨ 環境と健康 ⑩ 感染症と予防対策 ⑪ 食品と健康 ⑫ 学校と健康 ⑬ 地域における公衆衛生の実践 公衆衛生看護とは 母子保健・成人保健・その他 ⑭ 職場と健康 ⑮ 健康危機管理・災害保健			パワーポイントやプリントを使用し、掲示説明をしていく予定 【関連科目】 社会保障論 医療概論 微生物学 看護学概論Ⅰ 成人看護学概論 小児看護学概論 母性看護学概論 精神看護学概論 在宅看護概論 災害看護
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生 (医学書院) 国民衛生の動向		

授業科目名	看護学概論Ⅰ	担当講師名	高岡 操
開講時期	1 年次 前期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	この授業では、看護の考え方、とらえ方を学ぶ。看護についての考え方、捉え方を学んでいく中で、「普遍的な看護」を理解し、自己の看護観の形成へとつなげていくことを目的とする		
回	授業内容	キーワード	備 考
1	Ⅰ 看護とは① 看護のイメージ		グループワーク
2	看護とは② 看護が行われている場	病院 施設 産業 学校 地域など	講義
3	Ⅱ 人間にとっての健康とは	健康の概念 ウェルネス ウェルビーイング PHC ヘルスプロモーション、ネガティブ・ポジティブヘルス QOL	グループワーク
4	Ⅲ 看護の対象	個人 家族 組織 地域	講義
5	Ⅲ 看護の歴史とその発展	職業的看護の確立 日本における看護職の確立	グループワーク
6		発 表	講義
7	Ⅳ 看護に求められる役割と機能	自然治癒力 セルフケア コンプライアンス アドヒアランス	講義
8		ナイチンゲール ヘンダーソン オレム ニードの充足	講義
9	Ⅴ 看護実践の方法①	経験知 科学的根拠 ベナー クリティカルシンキング	講義
10	看護実践の方法②	人間関係技法 問題解決技法 看護過程 トラベルビー ペプロー レイニンガー ワトソン ケアリング	講義
11	Ⅵ 看護と倫理	基本的人権 自己決定	講義
12		看護者の倫理綱領	発表
13			
14	Ⅹ 看護の展望～看護に期待されているもの～	認定看護師 専門看護師 特定看護師	グループワーク
15			発表
評価方法	筆記試験 グループワーク等の発表 レポート		
教科書	系統看護学講座 基礎看護学 看護学概論(医学書院) よくわかる看護者の倫理綱領(照林社) 看護覚え書(現代社) 看護の基本となるもの(日本看護協会出版社) 新版看護者の基本的責務(日本看護協会出版社)		

授業科目名	基礎看護技術Ⅰ	担当講師名	山内 雅子 夜久 直也
開講時期	1 年次 前期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	この授業では看護技術の、環境の整備、安全の守り方、安楽な技術の提供の方法、感染予防の基礎技術を学ぶことを目的とする。		
回	授業内容	キーワード	備 考
1	Ⅰ 看護技術とは	技術 技能 再現性 応用性	講義
2	Ⅱ 安楽に援助する技術	ボディメカニクス トルク てこ	DVD
3	安楽な体位とボディメカニクス	手順書 手順 留意点 根拠	学内演習
4	Ⅲ 環境を整える技術①	ベッドメイキング	学内演習
5			
6	環境を整える技術②	環境 ナイチングール	講義
7	環境を整える技術③	環境整備	学内演習
8	環境を整える技術④ 就床患者のシーツ交換	患者の体位 患者の安全 皮膚の落屑 観察	学内演習 GW
9			
10	Ⅳ 感染と感染予防①	スタンダードプリコーション ユニバーサルプリコーション 日常的手洗い 衛生的手洗い 手術的手洗い 防御用具 感染経路予防策	講義
11	感染と感染予防② 消毒と滅菌	消毒 滅菌 無菌	講義
12	感染と感染予防③ ガウンテクニック、無菌操作 滅菌手袋装着	ガウンテクニック 無菌操作 滅菌手袋装着	学内演習
13	感染と感染予防④ 病院における感染予防対策	院内感染予防	講義 ※夜久講師
14	安全管理の技術①	看護事故と医療事故 医療過誤	講義 GW
15	安全管理の技術②	事故予防策	
評価方法	筆記試験 80 点 技術試験 20 点		
教科書	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ（医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院） 看護覚え書（現代社）		

授業科目名	基礎看護技術Ⅱ コミュニケーション 学習支援	担当講師名	上田智恵美
開講時期	1 年次前後期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	1 人間関係づくりの基礎となるコミュニケーションに関する理論を理解し、効果的なコミュニケーションを学ぶ。 ①看護におけるコミュニケーションの意義と特性を説明できる。 ②場に応じたコミュニケーション技術を身につける。 2 看護における教育的支援の目的を理解し、効果的なアプローチの方法を学ぶ。 ①対象者に応じた生活指導案が作成できる。 ②作成した指導案を共有できる。		
	授業内容	キーワード	備考
1	コミュニケーションの概念、種類	看護学で学ぶ意味 一方通行と双方向	講義 演習
2	コミュニケーションの基本原理・要素	表現装置（言語的要素、準言語的要素、非言語的要素） ミスコミュニケーション	
3	コミュニケーションを円滑にするための基本的態度	接近的行動・非接近行動	
4	コミュニケーション自己開示	ジョハリの窓、自己理解他者理解	
5	コミュニケーションに必要な能力①	傾聴、コーチング	
6	コミュニケーションに必要な能力②	質問、アサーション	
7	コミュニケーション障害への対応	失語症、構音障害	
8	対人関係の振り返り①	ロールプレイ	
9	対人関係の振り返り②		演習
10	対人関係の振り返り③	プロセスレコード	
11	対人関係の振り返り④		演習
12	看護における学習支援	患者教育の変遷	講義
13	対象に応じた学習支援	アクティブラーニング	GW
14	対象に応じた学習支援の実践と共有	ルーブリック評価	発表
15	対象に応じた学習支援の実践と共有		発表
評価方法	筆記試験 80% 演習 15%（ロールプレイ、プロセスレコード、学習支援） 出席点 5%		
教科書	系統看護学講座 基礎看護学 2 基礎看護技術Ⅰ （医学書院）		

授業科目名	基礎看護技術Ⅲ (活動、休息、食事、排泄)	担当講師名	井手窪 澄子
対象学生	1 年生 前期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授 業 の 目 標 および概要	1. 人間の活動と休息を理解し、対象が健康生活を送るために必要な援助を理解する 2. 栄養と食事のニーズを充足するための基礎的知識と援助方法を理解する 3. 食事行動や健康のレベルなどに応じた栄養と食事のニーズを充足させる効果的な看護技術を習得する 4. 人間の排泄を理解し、患者が健康的な生活を送るために必要な排泄技術を習得する		
回	授 業 内 容	キ ー ワ ー ド	
1	活動と休息の意義、活動と運動のアセスメント、体位変換の目的と留意点、移動・移送の方法	活動、休息、廃用性症候群、体位変換	
2			
3	【演習】体位変換、移動、移送	支持基底面、重心、摩擦力	
4	睡眠・休息の援助、苦痛の緩和・安楽確保の技術	サーカディアンリズム、ポジショニング、電法	
5	食事と栄養の意義、食生活と栄養状態のアセスメント、経口摂取ができる患者の食事介助	BMI、血液検査データ、摂食・嚥下のメカニズム 食事の種類、食形態	
6			
7	【演習】食事介助	誤嚥の予防、スプーンテクニック、口腔ケア	
8	非経口栄養法の種類と方法	経管栄養法、中心静脈栄養法	
9	排尿・排便の意義、排尿・排便のアセスメント	失禁パターン、ブリストルスケール	
10	排泄援助の方法	おむつ交換、陰部洗浄 ポータブルトイレ、差し込み便器、尿器	
11	【演習】排泄援助の実際（おむつ交換、尿器、差し込み便器）		
12	排泄に関する処置技術①	浣腸、摘便	
13	排泄に関する処置技術②	一時的導尿、持続的導尿	
14	【演習】一時的導尿	滅菌操作、感染防止、羞恥心	
15	基礎看護技術Ⅲのまとめ	まとめ	
評価方法		筆記試験 100%	
教科書		系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院)	

授業科目名		基礎看護技術Ⅳ(生活援助技術) 清潔	担当講師名	徳田 薫
開講時期		1 年次前期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要		身体を清潔に保つことは、人間が健康で生活するためには不可欠である。ここでは、清潔の意義を身体的、精神的、社会的な側面から理解し、援助する方法を習得する。 1) 清潔、衣生活の意義とその援助の目的を理解する 2) 清潔、衣生活の援助技術を習得する		
回	授業内容		キーワード	備 考
1	清潔の意義 皮膚粘膜の機能 清潔行動・清潔保持の方法 入浴		皮膚の機能 清潔の意義目的 快の刺激 清潔行動 入浴 静水圧 浮力作用	講義 GW
2	口腔の清潔の意義、目的、方法		口腔の構造 含嗽 歯磨き ガーグルベースン 口腔ケア 義歯	講義 DVD
3	口腔の清潔 演習			実習室演習
4	部分浴（手浴・足浴）の意義、目的 方法		清潔と洗浄 安楽 安全 湯の取扱い ベースン ピッチャー リラクゼーション 足の観察 末梢循環不全	講義
5	手浴 演習			実習室演習
6	足浴 演習			実習室演習
7	衣生活と寝衣交換の意義、目的、方法		外部環境 適応 自己表現 社会生活 寝衣 褥瘡予防 安楽	講義 DVD
8	寝衣交換 演習			実習室演習
9	全身清拭の意義、目的、方法		感染予防 血液循環 爽快感 皮脂膜 清潔 安全 安楽	講義 DVD
1 0	全身清拭 演習			実習室演習
1 1				
1 2	整容の意義・洗髪、陰部洗浄の意義、 目的、方法		身だしなみ 頭皮 毛髪 陰部の清潔 陰洗ボトル 紙オムツ 体位保持 ケリーパッド 洗髪車 洗髪台 体位保持	講義 DVD
1 3	陰部洗浄 演習			実習室演習
1 4	洗髪 演習			実習室演習
1 5				
評価方法		筆記試験 70 点 技術試験 20 点 出席・レポート提出 10 点		
教科書		系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）		

授業科目名	基礎看護学技術Ⅴ バイタルサイン フィジカルアセスメント	担当講師名	①高田 紳吾
開講時期	1 年次後期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	1. ヘルスアセスメント（フィジカルアセスメント）の意義と根拠が理解できる 2. 一般状態の観察、バイタルサインを測定することの意義と根拠が理解できる 3. バイタルサイン（呼吸・体温・脈拍・意識）を正確に測定できる 4. フィジカルイグザミネーションが正確に実施できる		
回	授業内容	キーワード	備 考
1	ヘルスアセスメントの意義と根拠	ヘルスアセスメントとは	講義
2	フィジカルアセスメントの意義と根拠	フィジカルアセスメントとは	
3	一般状態のアセスメント （バイタルサイン）	バイタルサイン 生命徴候	
4	一般状態のアセスメント （体温のアセスメント） （意識状態のアセスメント）	JCS 体温の正常・異常 体温の影響因子	
5	一般状態のアセスメント （呼吸のアセスメント）	呼吸の正常・異常 呼吸の影響因子 血中酸素飽和濃度（SP0 ₂ ）	
7	一般状態のアセスメント （脈拍のアセスメント）	脈拍の正常・異常 脈拍の影響因子	
8	一般状態のアセスメント （血圧のアセスメント）	血圧の正常・異常 血圧の影響因子	
9	バイタルサイン測定の実際		演習
10			
11	フィジカルイグザミネーションの基本技術	問診 聴診	講義
12		触診 聴診 打診	
13	フィジカルイグザミネーションの実際	呼吸器・循環器 （呼吸音 心音）	演習
14		消化器（腸蠕動音 腹部）	
15	フィジカルアセスメントの実際	事例学習	講義
評価方法	技術試験 20 点、筆記試験 80 点		
教科書	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②（医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院） フィジカルアセスメントガイドブック（医学書院）		

授業科目名		基礎看護技術Ⅵ (看護過程)	担当講師名	東浦龍至
開講時期		1年次後期	単位及び時間数	1単位 30 時間
授業の目標 及び概要		・科学的思考・問題解決思考に基づく看護過程の展開における思考が理解できる ・ゴードンの機能的健康パターンによる看護診断に基づいた看護過程を理解し、 対象者のニーズを満たすための看護過程の展開方法が理解できる		
回	授業内容		キーワード	備 考
1	看護過程の概念		講義の進め方・看護過程の必要性・構成要素	講義 及び 演習
2	ゴードンの機能的健康パターン		各パターンの考え方・内容・分析方法	
3	看護過程の展開 事例 1		情報の整理・アセスメント	
4			関連図	
5			統合アセスメント・看護診断	
6			優先順位・看護計画	
7	看護過程の実際 事例 2		事例提示 アセスメント・関連図	
8			看護診断	
9			優先順位・看護計画の立案	
10			実践の内容・評価基準について	
11			看護計画に基づいた実践	
12				
13			評価	
14			計画の追加修正・総括について	
15	記録と報告		看護記録の実際・報告の必要性など	講義
評価方法		紙上事例レポート 筆記試験		
教科書		系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ (医学書院) ゴードン 看護診断マニュアル (医学書院)		

授業科目名	基礎看護技術Ⅶ	担当講師名	山内 雅子
開講時期	1 年次後期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	1. 検査の基礎知識、検査における看護師の役割を学ぶ。 2. 与薬における基礎知識を学び、安全かつ正確に行う技術を習得する。 3. 治療・処置時の対象者の心理と看護者の役割を学ぶ。		
回	授業内容	キーワード	備 考
1	検査の意義 基本 看護師の役割	説明と同意	講義 GW DVD
2	検査に伴う看護技術 援助の実際Ⅰ	感染	
3	検査に伴う看護技術 援助の実際Ⅱ	無菌操作 安全 安楽	
4	検査技術Ⅰ 静脈内採血（注射器） （手順・留意点・看護師の役割）	原理 原則	学内演習
5			
6	検査に伴う看護技術Ⅲ 生体情報のモニタリング	侵襲	講義 DVD GW
7	検査に伴う看護技術Ⅳ 検査・処置の介助技術	被爆 穿刺	
8	与薬に関する基礎知識Ⅰ 与薬の基礎知識と看護師の役割	毒薬・劇薬・麻薬	講義 GW DVD
9	与薬に関する基礎知識Ⅱ 援助の基礎知識 輸血管理	安全 安楽	
10	与薬に関する基礎知識 注射法とは 薬液の吸い上げ	原理原則 6R	講義 DVD
11	与薬の技術Ⅰ 点滴静脈内注射 （手順・留意点・看護師、患者の役割）	無菌操作	学内演習
12			
13	筋肉内・皮下、皮内注射 （手順・留意点・看護師の役割）	筋肉内注射 濃度計算	講義 DVD
14	与薬の技術Ⅱ 筋肉内注射 （手順・留意点・看護師、患者の役割）	ホッホシュテッター クラークの点	学内演習
15			
評価方法	筆記試験 授業内小テスト		
教科書	1) 系看護学講座 基礎看護技術Ⅱ （医学書院） 2) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 （医学書院）		

授業科目名	基礎看護技術Ⅷ	担当講師名	①辻野美嘉 ②村上巖
開講時期	1 年次後期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	1. 救急時、終末期における看護の役割を理解し、必要な基礎的な技術を修得する 2. 効果的な呼吸への援助方法を習得する 3. 安全・安楽な電法の援助方法を習得する		
回	授業内容	キーワード	備 考
1	体温を調整する技術①	冷電法、温電法①	講義
2	体温を調整する技術②	冷電法、温電法②	学内演習
3	創傷管理①	皮膚の解剖・生理、創傷の治癒過程	講義
4	創傷管理②	創傷治癒の促進への援助	講義
5	創傷を管理する技術①	包帯法	講義
6	創傷を管理する技術②	包帯法	学内演習
7	呼吸を楽にする技術①	酸素吸入	講義
8	呼吸を楽にする技術②	酸素ボンベ CPS	学内演習
9	呼吸を楽にする技術③	体位ドレナージ	講義
10	呼吸を楽にする技術④	気管内吸引	学内演習
11			
12	救急時における看護の役割	一次救命処置の方法	講義
13	一次救命処置の実際	気道の確保 心マッサージ 人工呼吸 AED	学内演習
14			
15	終末期における看護の役割	死後の処置	講義
評価方法	筆記試験 ①90 点 ②10 点（3・4 回目）		
教科書	系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ （医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 （医学書院）		

授業科目名	臨床看護総論		担当講師名	辻野 美嘉
対象学生	1 年次後期		単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	1. 多様な健康上のニーズを持つあらゆる発達段階の人々に、基本的な看護学の知識や技術を統合し、応用するプロセスを学ぶ。 2. 看護者に求められる問題解決能力の基礎を学習することで、主体的学習行動を習得することができる。			
回数	講義内容	キーワード	備考	
1	健康上のニーズを持つ対象者と 家族への看護	マズロー、エリクソン	講義、個人ワーク、グループワーク	
2		病院と施設、在宅における看護		
3	健康状態の経過に基づく看護	健康、急性期	講義、個人ワーク、グループワーク	
4		急性期、危機モデル	講義、個人ワーク、グループワーク、 DVD	
5		リハビリテーション期	講義、個人ワーク、グループワーク、	
6		慢性期、病みの軌跡	講義、個人ワーク、グループワーク、 DVD	
7		終末期、死の受容段階、悲嘆		
8	主要な症状を示す対象者への看護	呼吸、循環、栄養・代謝、排泄、活動・ 休息、安全・生体防御機能、安楽に関 連する症状を示す対象者への看護	プロジェクト学習、ポートフォリオ 個人ワーク【準備】	
9			個人ワーク【情報リサーチ】	
10				
11			個人ワーク【制作】	
12			グループワーク 【プレゼンテーション】	
13			個人ワーク【再構築・成長確認】	
14	治療・処置を受ける対象者への 看護	安静、輸液療法	講義、個人ワーク、グループワーク	
15		手術療法、化学療法、放射線療法		
評価方法	筆記試験・ポートフォリオ・レポート・グループワーク			
教科書	系統看護学講座 基礎看護学 臨床看護総論 (医学書院)			

授業科目名	成人看護学概論	担当講師名	高田 紳吾
開講時期	1 年次後期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	1.成人の身体的・心理的・社会的側面からとらえ、個人およびその家族の発達段階と発達課題を統合的に理解できる 2.学習者としての成人の特徴をとらえ、健康教育や患者教育の基礎が理解できる 3.成人の生活に焦点を当て、成人期にみられる健康障害や成人の看護に有用な概念について理解できる		
回	授業内容	キーワード	備 考
1	成人看護学概論とは	大人とは、 成長・発育、社会化 成長発達段階と発達課題	講義 及び 演習
2	青年期の特徴	青年期の身体・精神・社会的特徴 青年期を取り巻く環境、健康問題	
3	壮年期・向老期の特徴	壮年期・向老期の身体・精神・社会的特徴 壮年期・向老期を取り巻く環境、健康問題	
4	家族とは	成人と家族、家族の機能と現代における変化	
5	成人の生活の特徴①	成人の生活とは、成人にとって社会とは	
6	成人の生活の特徴②	仕事とは何か、社会環境の変化と生活への影響、 ワークライフバランス	
7	大人の健康状況①	大人の暮らし、社会の変化と健康への影響	
8	大人の健康状況②	大人にとっての健康とは、健康の捉え方	
9	保健・医療・福祉システム①	社会環境の変化と取り組みと看護 (健康日本 21、がん対策基本法など)	
1 0	保健・医療・福祉システム②		
1 1	大人の学習 ストレス①	大人の学習の特徴、アンドラゴジー、行動形成	
1 2	大人の学習 ストレス②	ストレスとは、コーピングプロセス	
1 3	意思決定支援・危機	患者の権利擁護、危機的状況と意思決定支援	
1 4	セルフケア 自己効力感	セルフケアとは、セルフマネジメント、 自己効力 QOL	
1 5	エンパワメント	エンパワメントエデュケーション	
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 成人看護学総論 成人看護学①（医学書院）		